

金沢脳神経外科病院 広報誌 | 地域の皆様の「毎日」を支えます。

Kanazawa Neurosurgical Hospital

# Everyday

2019

Vol. 74



## 特集 Feature of Kanazawa Neurosurgical Hospital

パーキンソン病患者の前かがみ姿勢に対する最近の治療法  
—局所麻酔剤の筋肉内注射療法—

TOPICS

- ▶ 新任医師のご紹介
- ▶ ケアマネ連携交流会を開催しました

# 交通事故で 意識不明の方のために

## —NASVA 委託病床での長期治療について—

金沢脳神経外科病院 副院長

宗本 滋



交通事故で意識不明の状態になられた方のために長期に入院治療を行えるナスバ病床が2019年1月18日に当院に開設されました。

全国で毎日交通事故が起きていますが大きい事故では死亡、重傷と報道されています。事故で重傷と報道された方たちのその後は大変であろうと思われそうですが、詳細について知る機会は少ないように思います。突然、事故で意識不明となれば、その日から本人、家族の生活が一変します。

入院生活、経済的負担、精神的苦痛負担など想像を越えた状況に陥ってしまいます。社会ではできるだけ、このような状況に手を差し伸べようといういろいろな活動が行われています。何よりも受傷した本人の回復が一番ですが、現在の医学での限界もあり、意識がなかなか回復しない状態を「遷延性意識障害」と名付けています。

この状態に対しては特別な配慮が必要であり、国土交通省が主体となり、交通事故で受傷された患者さん本人とそこご家族の支援に力を注いでいます。

ナスバ病床とはその活動の一環であり、「遷延性意識障害」の方を専門的に長期に治療する病床であり、一見、病院の普通の病床のように見えますが、そこは国土交通省の管轄下であり、専門的な支援体制が整っています。

適切な治療、リハビリテーション、手厚い看護体制など意識回復の可能性を追求しながら、長期に治療を受けることができます。

長期とは概ね3年を目安としており、その間にその後の生活を見据えた準備をご家族とともに進めてゆくことになります。

当院もナスバ病床開設後、医師、看護師、リハビリテーション療法士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、検査技師、栄養士、事務など多職種で取り組んできており、全国のナスバ病床関連スタッフとの共通研修、意見交換などを行ってきております。また、国土交通省、ナスバ本部からの視察も頻回に行われ、ナスバ石川事務所との連絡も行っています。

ご家族に対しては、6月に「遷延性意識障害者家族定期交流会」が開催され、交通事故専門弁護士の講演と相談、高次脳機能障害の講演などが行われました。

交通事故後在宅生活をされている方々のために11月には「NASVA 石川支所介護料受給者交流会」も当院で行われています。

今後も、本人、ご家族の思いが叶うような医療を発展充実させてゆきたいと考えております。





# パーキンソン病患者の前かがみ姿勢に対する最近の治療法

## —局所麻酔剤の筋肉内注射療法—

池田 清延 金沢脳神経外科病院 副院長

### ■ 当院の取り組み

当院では4年前よりパーキンソン病の患者さんに深部脳刺激療法手術を行っています。これにより、すくみ足による歩行障害や手足のこわばり、震えなどの症状を軽減できていますが、前かがみ姿勢の改善は手術でもお薬でも治りにくく困っていました。

そんな折、1年半前に国立精神・神経医療研究センター病院院長の「パーキンソン病の腰曲がりに対するリドカイン筋注療法」の講演会がありました。最初はその内容について半信半疑だったのですが、詳細を知るべく後日、施設訪問の約束をさせていただきました。

その年の10月に東京小平市の同センター病院に神経内科 向井洋平先生を訪ね、実際の局所注射とリハビリ加療、そしてその効果を目の当たりにしました。本治療を当院でも確立するため向井先生をお迎えして、当院にて講演と実技指導をしていただきました。



### ■ 症状と治療法について

パーキンソン病で前かがみ姿勢の方は、立位時に正常人では見られない両脇腹の「外腹斜筋」の異常緊張が見られます。ほかにも腰曲がり前屈姿勢に関係する「腸腰筋」の異常な筋緊張が見られます。これらの筋肉に局所麻酔剤であるリドカインを注射して筋緊張を和らげ、上体をベルトで吊り上げ起こしてベルト（トレッドミル）上を歩行して、相対的に背筋を伸ばすリハビリ（体重免荷式トレッドミルトレーニング：BWSTT）を続けて行うという治療法です。これらを7日間毎日続け、正しい姿勢を再認識するという意識変革と自覚が本治療法の狙いです。

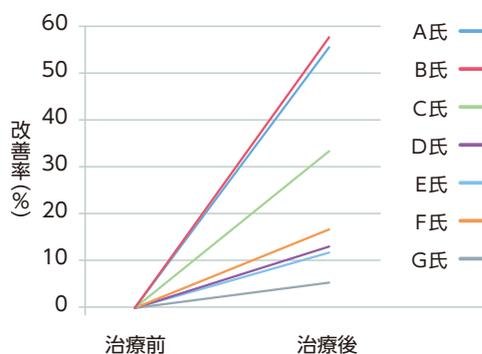
なお、リドカインのように作用時間が数時間という短い薬剤ではなく、長期間作用するボトックス（ボツリヌス毒素製剤）がありますが、保険適用がなく国内での一般臨床現場での実施は難しいと考えます。



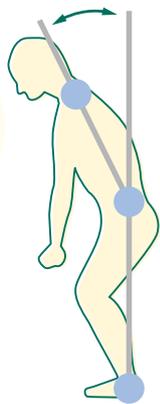
## ■ 当院における治療実績

当院では昨年の10月より治療を開始し、1年間で10例行いました。その結果に患者さん全員に満足していただき、予約も来年1月までいっぱいです。前かがみ角度や首下がり角度も改善し（うつむいていた顔が明らかに上がり前方を向く）、その効果は最長6ヵ月以上続いている方もおられます。しかし、退院後に自宅での長時間の前屈姿勢の継続（最も悪いのは草むしり作業）は厳禁で、自身での背伸ばし（壁に向かい両手を上に伸ばして背筋を伸ばす動作、私は「セミ体操」と呼んでいます）を毎日頻回に行い、姿勢保持に努めることが必須です。怠ければ、元の木阿弥です。

腰曲がり角度の改善率



※当院の7例を対象にしたデータです。  
治療の結果には個人差があります。



## ■ 治療内容について

入院は約2週間、治療前に異常活動する筋群を探すために筋電図検査を行い、姿勢異常の評価を行ってリハビリ計画をたてます。注射は7日間、エコーガイド下で異常活動筋（ほとんどが外腹斜筋）にリドカイン局注を行うのですが数分で終わります。その後のリハビリには80分間程度のBWSTTを含む理学療法と40分間程度の作業療法を行っています。退院時に、姿勢やバランス、歩行状態の改善度の評価を行います。

## スタッフより

これまでパーキンソン病の患者さんには薬剤や外科的治療を行って来ていますが、これらの治療法でも困難な姿勢異常の治療への新たな扉が、当院で開かれようとしています。より多くの姿勢異常でお困りの患者さんへの福音となり、一人でも多くの方に本治療を受けていただきたいとスタッフ一同考えています。



# 新任 医師のご紹介



もり あつこ  
**森 敦子 先生**

出身地 大阪

専門領域 脳神経内科

## 患者さんへ一言

金沢脳神経外科病院に赴任しました脳神経内科の森敦子と申します。脳神経内科は精神神経科や心療内科と混同されることもあるのですが、精神神経科は気分の変化などの精神的な病気を、心療内科は心の問題により身体の変調をきたす状態を主に扱います。コンピュータでいえばソフトウェアの異常に似ており、脳MRI検査などでは異常がないことが多いです。

脳神経内科はハードウェアの異常のように、神経にキズが入る病気が主な対象です。脳卒中を引き起こす血管障害から、感染症、神経難病など多くの疾患を扱います。これまで手足のしびれや脱力などの症状に対する針筋電図検査を専門としながら、脳神経内科全般の診療を行ってまいりました。丁寧な診療を心掛けてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

## ケアマネ連携交流会を 開催しました

地域医療福祉部

11月16日に近隣のケアマネジャーの皆さんと交流を深めるため、「ケアマネ連携交流会」を開催いたしました。この取り組みは2016年から行っており、今回で7回目の開催となります。土曜日午後の開催にもかかわらず当院職員24名、外部参加27名の計51名の参加となり大盛況でした。

前半は「認知症の診断と治療」と題し佐藤病院長による小勉強会、後半は普段の取り組みや悩んでいること、困っていることなどをざっくばらんに意見交換しました。

参加者から「他市の取り組みを知ることができてよかった。」「時間があっという間でした。」「気づかされることがたくさんありました。」など意見をいただくことができ、地域の垣根を越えて交流ができたと思っています。参加していただいた皆さんありがとうございました。





## いけばなクラブ

私たちいけばなクラブは平成25年4月に発足し、現在会員数は8名です。

発足のきっかけは女子力アップとリフレッシュですが、部員それぞれの入部のきっかけは、患者さんとの会話や、院内に飾ってある作品を通して華道に興味を持ったことや、他部門との交流機会を持てる、など様々です。

主な活動は毎週木曜日の業務後に、草月流の先生よりご指導いただいている御稽古のほか、これまでも北国花展や21世紀美術館、しいのき迎賓館などで開催される展覧会などにも出品してきました。先生の丁寧なご指導のもと、個人のペースで和気藹々と活動させていただいています。



華道の技術や表現を学ぶのみでなく、お花から癒しを感じたり、患者さんと共通の話題を得るなど、自己研鑽やお花を通じた社会・人との繋がりを感じています。

これからも、日々の作品や花展への出品などから、皆さんに少しでも安らぎや元気を伝えられるクラブとして盛り立てていこうと思います。



### 部門目標発表会を開催しました

10月30日に部門目標の  
中間発表会を行いました。

病院内には医師や看護師、リハビリスタッフをはじめ、多種多様な専門性を持った職員が協働しています。職員同士が各業務の理解を深めるため、当院では年2回、各部署の業務がどのような目的のもとに行われていて、それに対する努力がどういった成果に結びついているのか、情報共有をする場を設けています。各部門長の発表が行われ、下半期の目標達成に向けて、全職員で決意を新たにする貴重な時間となりました。



### 金沢マラソン2019に当院の職員が参加しました



今年で開催5回目となる「金沢マラソン2019」が10月27日に金沢市の広坂通りから石川県西部緑地公園陸上競技場までの公認コースで開かれました。

国内外から1万4千人を超えるランナーが時折冷たい雨が降り注ぐ中、城下町を駆け抜けました。

当院の職員7名も出場し温かい沿道からの応援を受け、全員無事にゴールすることができました。

## 病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様に、  
より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。



日本医療機能評価機構 認定病院  
医療法人社団 浅ノ川

# 金沢脳神経外科病院

〒921-8841 石川県野々市市郷町262-2  
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914  
<http://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第74号 発行:広報委員会  
2019年12月発行